



朝日山だより

～平成29年1月 初詣より 佐賀成田山にて～

社会福祉法人 あさひ会

生活介護事業所 朝日山学園・グループホーム ひまわり・こすもす

ヒューマンサポート タッチ・佐賀県発達障がい者支援センター結

〒841-0073

佐賀県鳥栖市江島町字西谷3300-1

TEL (0942) 84-3266

FAX (0942) 84-3286

E-Mail : asahi-yama@grace.ocn.ne.jp

『新年度に向けて』

施設長 高取 正憲

皆様、日頃より朝日会の取り組みにご理解とご協力ありがとうございます。いよいよ新年度を迎えようとしています。去年は年度初めに熊本地震、夏には相模原の障がい者施設殺傷事件と世間を震撼させる出来事に多く見舞われた年でした。

法人として災害時に備えて食料や水などの備蓄を整え、また不審者の侵入への備えの対策を講じていきますが、防犯の強化で施設と地域との距離が生じ、障がい者への理解の障壁となるのではと危惧するところです。

念願であったグループホームは4月からの開所に向け、建設工事も順調に進んでいます。スタッフも年度途中から募集し続け、少しずつではありますが採用できています。これから本格的にグループホームでの生活をイメージして準備を進めていかななくてはなりません。



利用者の中には初めて親元を離れる方も多く、親離れ、子離れ出来るのか不安だと思います。スタッフも初めてのグループホームでの生活をどう支えていけるのか不安がありますが、色々なハプニングを乗り越えながら、その都度皆で考え合い、工夫し合いながら豊かな生活を提供できるよう、焦らずに利用者の気持ちに寄り添いながら支援できるよう準備を進めています。

保護者の皆様のご心配な点も、スタッフと連携を取りながら任せて頂き、信頼関係が構築できるように努力していきたいと思っております。

経験の浅いスタッフは、利用者や保護者に育てられる面も多く、保護者の皆様には一緒に育て、作り上げていこうという気持ちで協力して頂きたいと思っています。

☆朝日山学園の取り組み・・・

『Aさんの取り組みについて』

生活支援員 田中大輔

Aさんはピアノが好きな方です。スタッフが弾くピアノを聴いたり、自ら鍵盤を叩きリズムに乗る様子が見られています。好きな音楽の時はゆったりと座って聞かれ、このひとは落ち着ける時間でもあり、好まれる時間帯でもあるようです。また、散歩も好きで、天気の良い時には公園や土手を、雨の時はショッピングセンターのアーケードの下を散歩しています。健康の為に午前、午後に散歩の活動を取り入れています。ピアノや散歩など要求のある時は可能な限り要求に応え、心身共に充実した生活が送れるように支援しています。

このような活動以外に、現在洗濯物が入ったカゴを所定の場所へ運ぶ「運搬作業」に取り組んでいます。運んだ洗濯物は、他の利用者の方が「洗濯」という仕事の役割の一端を担っています。ただ運ぶだけではなく、活動に繋がりをを持たせる事で自分が何の為に取り組んでいるのかを明確にする事も重視しています。

取り組む中で、最初は①の様に真ん中にとり手が2つ着いた一般的な洗濯籠を両手でそれぞれ持ち、体の前に持ち上げて運んでもらっていました。しかし、Aさんにとっては運びづらく、安定せず歩きにくいためか、途中で手を放したり、動きが止まる事が見られました。

現在は②の様に片方の手をカゴの底の部分に、もう片方の手はカゴの側面を持つ事で歩きにくさも解消され、安定して運ぶ事ができています。



取り組みにあたり「カゴを持つ」＝「取手を持つ」という考えから始まり、Aさんの持ちやすさ、やりやすさを意識できていなかった様に思われます。取り組みを進める中で、どこの部分が持ちやすいか、どうしたら継続して取り組めるのかを観察し今の形に繋げる事が出来ました。

また、活動への意識づけや連携して行う事の意味を伝える事は継続して行う事で伝えていきます。繰り返し行う中で見えてくる課題やAさんの反応などを大事に取り組んでいきたいと思えます。

改めて利用者支援の在り方を学ぶ機会となり、相手がどう感じているかと言う事を日々の支援の中で学ぶ事が多くあります。利用者の方の思いを考え、より良い充実した生活に繋がられる事を常に意識して取り組んでいきたいと思えます。



『応用行動分析 ABA の連続講座を受講して

今後に活かしていきたい事』

GHこすもす世話人 矢羽多 勇気

今回、応用行動分析に関する連続講座に参加させて頂きました。私自身「応用行動分析」と聞いた時には、何の事だろう？と思いながら受講しました。

まず、押さえておきたい定義として「行動とは生きているからできるすべての動き」の事を「行動」という事です。お腹が空いたら食べる、トイレに行ったら手を洗う、車を運転する等、行動する事によって生活を成り立たせており、それらの行動は生まれてから今まで学習し、身につける事で普段の生活を豊かにする事ができます。しかし、知的や発達に障がいを持たれた方は、私達が普段何気なくしている行動が身につけていない(理解できていない)状態で生活をされている時があります。そのような時、

手当たり次第に身につける方法もあるかもしれませんが、それでは怒らせてしまったり、嫌な関わり方になり、信頼関係を失ってしまったり、誤学習を招いてしまう可能性があります。嫌な関わり方や誤学習にならない為に行動の背景にある要因を分析する事で社会生活上の問題を解決していく方法を応用行動分析と言います。



行動を支援するためには3つのレベルから考えます。

レベル①…行動が身についているが「する事が解らない」→「解りやすく伝える」

レベル②…「行動が身についていない」→「正しい行動を身につける」

レベル③…行動は身についているが「やる気が湧かない」→「やる気を起こさせる」

この3つのレベルから行動を分析します。例えば、手洗いで考えてみます。私たちはトイレに行った後や食事をする前に手洗いをします。そこで、この手を洗う行動が身についていない場合を考えていきます。

レベル①では、手を洗う事は解っていてもどの場面で洗えば良いのか解らない場合、トイレや洗面台等にトイレに行った後に「手を洗う」という掲示をします。言葉で理解できない場合はイラストや写真を用います。その事によって介入をせずに手を洗う事ができるようになります。

レベル②では行動が身についていない場合です。実際に手を洗って欲しいトイレの後や食事前に手洗いの仕方を教えます。その際、手の洗い方を伝える手順書を作成し、手洗いの仕方を伝え、いつ・どこで・どの様に行うのかを伝えます。

レベル③は、やる気を起こさせる方法です。手を洗ったら次に何をするのか、何があるのかを伝え、動機付けをします。食事であれば手を洗ったら食事ができることやおやつなどに繋げ、洗う事の意欲を高めます。

応用行動分析を学んで感じた事は、行動を分析するにあたって、観察がとても大切な事ですが、今まで私自身漠然としていたという事に気づきました。また、ただ観察をするのではなく、この3つのレベルを意識しながら観察をしていく事が重要だと感じました。また、この講座を受講して、次の5つの考え方を学びました。

1. 対象者の視点で考える。
2. 将来にわたる自立を重視する。
3. 対象者と周囲の人の幸福を考える。
4. 対象者と周囲の人の幸福のためなら徹底的に環境の変更を促す。
5. 実践の確認と改善を重視していく。

目先の問題を解決する事も大切な事ですが、利用者の方の将来に向けて自立への支援を考え、実践していかなければいけないと感じました。改めて人の人生を支える・豊かにしていく、とても重要で責任のある職業だと感じました。

この講座で学んだ事を、受講できなかったスタッフと共有しながら新しいグループホームや学園での生活が豊かになる様に活用していきたいと思えます。

『新任職員研修に参加して』

生活支援員 中西麻衣佳

今年度から朝日山学園に入社し、新任職員研修として、「ビジネスマナー編」、「福祉職・組織活動編」、「フォローアップ研修」と3つの研修に参加しました。

研修を受けるまでは、新社会人としての不安も大きく、上司との関わり方や周囲のスタッフとの連携、仕事の進め方において悩みもありましたが、研修を通して自身の悩みと向き合い、社会人として福祉専門職として自身がどうあるべきかについて見つめ直す事が出来ました。

今回の研修は、どれも社会人として必要な能力を養成するもので、まず、「ビジネスマナー編」では、「相手に与える印象は、出会って3秒で決まってしまう」と言う事から、表情(笑顔)の作り方や気持ちの良い挨拶の仕方、話し方など相手とより良い関係を築くために必要な能力について学びました。また、様々な福祉関係職の方々が集まり、グループディスカッションを通してお互いの職場での不安や悩みについて共感する事が出来ました。その多くが、上司との付き合い方や利用者、外部の方との接し方でした。



「福祉職・組織活動編」、「フォローアップ研修」では、主に基礎的なコミュニケーション能力として、相手への情報の伝え方について学びました。職場では、よくスタッフ間の情報共有や連携が大切だと言われていますが、その際に伝える側と受け取る側の『ずれ』が生じる事があります。例えば、「白くて柔らかい物」と言われて豆腐を想像する人もいれば、雲を想像する人もいるかもしれません。相手に情報を伝える際は、自身の主観的な情報は入れずに見たままの情報をそのまま伝え、主観的情報と客観的事実は分けて伝える事の大切さを改めて感じました。

その他、相手のタイプに合わせた情報の伝え方では、相手が『先に結論を聴く事を好むタイプ』なのか、それとも『順序を追って最後に結論を聴く事を好むタイプ』なのかを見極めて、情報を伝える事で相手に伝えたい事がより伝わりやすくなります。これらの様に、コミュニケーション能力とは、ただ相手に伝われば良いのではなく、どのように伝えるのかといった部分が重要になってきます。そして、その根底には、相手が気持ちよく情報を受け取る為に「ビジネスマナー編」で受けた『相手に与える印象作り』が、大切だという事を今年度の研修を振り返り改めて感じました。

日頃の業務でも、スタッフ間の連携の重要さは身を持って感じていますが、自身の業務を振り返るとまだまだ「報告・連絡・相談」が出来てい

ないと感じる面も多く、表情も業務の必死さで笑顔を忘れてしまっている日もあるのではないだろうかと反省する部分も多くあります。研修で学んだ事や感じた事はこれからも忘れず、社会人としての最低限の基礎として常に念頭に置き、情報の共有も必ず意識する事で安全、安心な支援に繋がっていきたいと思います。

☆行事報告・クリスマス会（12月）

『朝日山学園クリスマス会』

G Hひまわり世話人 光野晃一

去る平成28年12月22日に朝日山学園でクリスマス会を開催しました。今年一年の締めくくりとして、今年度も70名近くの方に御参加頂き、会を盛り上げて頂きました。

日中活動の中で利用者の方が作成した飾りやクリスマスツリー、メッセージカードも飾られ、クリスマス一色となりました。また日頃から利用者の皆さんが頑張っている様子を紹介するコーナーを設けました。

会場にはクリスマスソングも流れ、クリスマスケーキやお菓子、軽食を囲み、ジュースを飲みながら思い思いの時間が過ぎていきました。その時、会場に、お地蔵さんの入場してきました。皆さんにお菓子のプレゼントです。突然の事で驚きましたが、みなさん喜ばれていました。

その後のゲームでは、テーブル席の皆さんがひとつのチームとなり、どれだけアルミ缶を積めるかを競うゲームを行いました。チーム一丸となって積み上げるゲームで、初対面の方々も協力しながら積み上げていきます。缶の種類に応じて得点も違い、試行錯誤しながらいかに倒れず積み上げていくかを競いました。チーム



それぞれ笑いあり、感動あり、驚きありで、豪華景品？を手に笑顔も見られました。利用者の音楽発表では、今年度の音楽活動で取り組んできた「世界に一つだけの花」「ふるさと」の楽器演奏をグループ、楽器に分かれて演奏しました。クリスマス会で発表するという目標を持って取り組み、改めて目標を持って取り組む事の大切さを感じる機会となり、会場からも温かい拍手を頂きました。

そしていよいよ、利用者の皆さんが毎年楽しみにされているプレゼント。サンタさんから利用者の皆さん一人ひとりに手渡され、その場でプレゼントを確認され、大事そうに持っておられる方や保護者と一緒に確認しては喜ばれた方と色々な表情を見る事が出来ました。

今年も皆様からの温かいご協力・ご支援により無事、クリスマス会を開催する事ができました。会場は時に再会の場ともなります。「また来たい。また会おうね」と、いった言葉を大切にしながら、来年度以降も皆さまが笑顔になれるようなクリスマス会を企画していきたいと思えます。



☆ボランティア募集しています

朝日山学園では、日中活動のお手伝いをして頂ける方を募集しています。活動内容は、利用者の方との散歩や作業のお手伝いです。ボランティアにご協力いただける方はご連絡をお待ちしています。



(TEL 0942-84-3266 係 橋口まで)

◎新しい職員の紹介

なかしま ともこ
中島 智子 さん



平成28年10月より朝日山学園の生活支援員としてお世話になっています。『我が子が受けたら嬉しい支援』を提供できる様努めています。よろしくお願いいたします。

おの ようこ
小野 洋子 さん



平成28年10月より朝日山学園の生活支援員として働いています。利用者の皆様に喜びや楽しみを感じてもらえるように笑顔で頑張りますのでよろしくお願いいたします。

やの ふゆき
矢野 芙雪 さん



平成28年10月に入社いたしました。利用者の方の細かな変化に気付き、気持ちに寄り添って考えられるような支援員を目指し頑張っていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

いまいずみ ちはる
今泉 千春 さん



平成28年11月28日に就職させて頂いた今泉です。利用者の方が楽しく学園生活が過ごせるように支援を頑張りたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

みやざき のりお
宮崎 則男 さん



平成28年12月から生活支援員として朝日山学園にお世話になっています。利用者の皆さんが毎日を気持ちよく過ごせる様に頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

うどう すみこ
有働 寿美子 さん



1月より皆さんと一緒に働く事になりました。ご迷惑をおかけする事もあるかと思いますが、新しい出会いに感謝し頑張っていきますのでよろしくお願いします。

もとishi しょうこ
元石 章子 さん



平成29年1月より支援員としてお世話になっています。明るく楽しく、利用者さんと毎日を過ごせるように心がけて行きます。よろしくお願いします。

こべ こうき
小部 晃希 さん



1月から勤務する事になりました小部晃希です。まだいたらない点が多々ありますが、利用者の方により良い支援が行えるよう日々精進して参りたいと思います。よろしくお願いします。

さとう ひろき
佐藤 裕樹 さん



経験のない仕事で解らない事ばかりですが、色々相談しながら利用者の方の気持ちに寄り添いながら支援していきたいと思っています。よろしくお願いします。

やまぐち ゆきひさ
山口 幸久 さん



2月より新しく入りました山口と申します。早く皆さんに信頼されるように頑張ります。宜しくお願いします。

◎寄付者ご芳名

H28. 7~12

愛甲 強 様・天本 清香 様・内田 孝喜 様・大坪 稔 様
岡 翠 様・於保 好治 様・上尾 央子 様・権藤 ツヤ子 様
角 勲 様・鈴木 洋二 様・田中 洋子 様・田子森 恒美 様
田本 啓子 様・原口 敏子 様・野田 芳隆 様・廣瀬 耕三郎 様
松尾 初子 様・福島 多恵子 様・三木 洋子 様・毛利 トシ子 様
山本 立夫 様・吉田 登代子 様・浅井簡易郵便局 様・西清寺 様
西九州観光開発株式会社佐賀カトリック倶楽部 代表取締役 山口 耕治 様

クリスマス会寄付・寄贈

鶴川 高富 様・岡 勝昭 様・岡村 國助 様・小川 裕美子 様
木下 真治 様・桑原 美智子 様・眞田 武彦 様・齋藤 友幸 様
野田 皓一 様・権藤 美世子 様・執行 俊邦 様・権藤 ツヤ子様
原口 敏子 様・末藤 久美子 様・鈴木 洋二 様・西久保 正子様
堤 清子 様・廣重 新興 様・古澤 文雄 様・光安 一磨 様
あとりえ・まつもと松本 知子 様
医療法人野田内科理事長 野田 芳隆 様 原武登記測量事務所 様

以上の皆様にご協力いただきました。ありがとうございます。

回編集後記

2017年がスタートしました。去年は悲しい事故が多い一年でした。相次ぐ地震や災害。障がい者施設での残虐的な事件。また、我が子への虐待やその果てでの命を奪う行為も数多く耳にしてきました。私たちは人の命、その方の人生を支える事を生業としています。今回、新しいグループホームの開所を控え、利用者の方、保護者の方の様々な思いに寄り添いながら皆さんと一緒に新しい生活をスタートさせて行きたいと思っています。

(菅)